

平成21年5月14日現在

研究種目：基盤研究（c）
 研究期間：2006－2008
 課題番号：18520261
 研究課題名（和文） 中国舟山の人形劇に見る口承文藝の研究―「説唐」故事を中心に―
 研究課題名（英文） A Study of Oral Literature in the Puppet Plays of Zhoushan Islands, China --mainly on the historical story “Shuo Tang (Tang dynasty story)”
 研究代表者
 橋谷 英子（馬場 英子）(HASHIYA EIKO) (BABA EIKO)
 新潟大学・人文社会・教育科学系 教授
 研究者番号：80189513

研究成果の概要：

中国舟山群島定海県では、今も「願戯」（願掛け、願ほどき芝居）、また結婚など人生儀礼における奉納戯として人形劇が上演される。舟山における人形劇の現状を、当地を代表する人形劇団侯家班の上演を録画し、一部は文字テキストとして詳細に検討することによって、明らかにした。舟山人形劇の演目は「説唐」など、基本的にすべて歴史物であるが、テキスト面からも中国口承文藝における「講史」の伝統を受け継ぐものであることを確認した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	510,000	3,410,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：中国文学・人形劇・口承文藝

1. 研究開始当初の背景

(1) 舟山では、今も廟会（寺の祭り）や婚礼、誕生祝などの民俗行事で、人形劇が上演されるが、その演目は「講史」とのつながりをうかがわせる伝統的な歴史物語であり、中国の口承文藝史を考える上で、たいへん興味深い。しかし、これまでほとんど調査も研究もされてこず、滅びるに任されている。

(2) 研究代表者たちは、本研究開始までに、舟山を代表する人形劇団侯家班に、南戯で「白兔記」として名高い「李三娘」を上演してもらった。その結果、侯家班の「李三娘」

は成化本などの「白兔記」テキストとも関係がうかがえるものであり、舟山人形劇は演劇史の面からも重要な資料であると予想された。

2. 研究の目的

(1) これまでの研究で、中国の口承文藝史を考える上で、舟山の人形劇が大きな意味を持っていることがわかったので、代表的人形劇団侯家班の演目全体について、その内容を把握し、整理して、できるだけ多くの上演記録を残す。

(2) 更にほかの人形劇団についても調査し

て、舟山人形劇の全体像を明らかにする。

(3) 中国の口承文藝史における人形劇の位置づけ、役割を検討し、講史や戯曲との関係について検討する。

3. 研究の方法

(1) 舟山で最も人気の高い演目「郭子儀(月唐)」戯を、人形劇団侯家班に演じてもらう。映像記録を残すとともに、上演時間40日160時間にも及ぶという長編が、脚本なしでどのように演じられていくのかを、実際の上演を見て検討する。

(2) 侯家班以外の人形劇団、すなわち侯家班と同じ定海県の別の劇団、および岱山と沈家門の団にも上演してもらい、録画記録を残すと共に、侯家班との演出の比較をする。

(3) 民俗行事の中での人形劇の役割を、実際の行事の進行の中で確認し、人々の暮らしに生きる人形劇の役割について考察する。

(4) 「李三娘」(白兔記)の上演テキストを完成させる。方言部分の表記を工夫し、できるだけ実際の発話に近い表記で整理し、日本語訳を付す。

4. 研究成果

(1) 舟山の人形劇の現状を基本的に明らかにした。

侯家班の現在の構成員は以下のとおり。

主演	侯 雅飛	女	1953	年生
後台(楽器)	顧 国芳	男	1951	年生 夫
	侯 国平	男	1949	年生 兄
	侯 惠義	男	1927	年 父
(新主演)	侯 夏玲	女	1985	年 姪

現在、舟山で上演される人形劇は、すべて布袋戯である。以前は「下弄上」と呼ばれる棒遣いの70センチほどの人形を遣う劇もあったというが、滅んでしまい、人形も全く残っていない。現在の布袋戯は、人形を遣い、語り唱う主演1名と、楽器伴奏を担当する2,3名の「後台」で構成され、折りたたみ式の舞台を持って自由に移動し、上演する。侯家班は、もともと侯惠義が始めた一座で、侯惠義は主演を勤めたが、現在は引退して、時々楽器伴奏を手伝っている。侯夏玲はおそらく、現在舟山で最も若い主演である。90年代以降の人形劇需要増加(経済力が豊かになり、また民間の宗教活動の制限が少し緩和されたことによる)に応える形で、お婆の侯雅飛に弟子入りし、2009年から独立して侯家班第二舞台の主演を勤める。伴奏には、家族以外に公務員を退職した黄根福などが随時加わっている。

2004年9月19日に定海の海山公園で開催された人形劇大会には定海県内の14の一座が参加するなど、舟山定海県には20近い一座がある。(この大会は以後、行われていな

い)しかし侯家班以外は農民の副業で、年末年始など注文があるときに、年に数日演じるだけと言う一座も多い。

舟山には、他に岱山と沈家門に、人形遣い(主演)が2,3名の少し規模の大きい一座が各一ある。

人形劇は、廟(寺)の祭り、個人の家結婚式、子どもの生後一ヶ月の祝い、建前などに神に奉納される。人々はお相伴して見るのだ、という態度が生きており、拍手などはしない。

上演に際しては、神、祖先の席を用意し、ご馳走を供える。たとえば結婚前夜に、嫁を迎える家で行う祭りでは、必ず豚と羊を供えるので、このときに奉納する劇を一般に猪羊戯と呼んでいる。この場合は、子の誕生を祈願して、子ども椅子の席も用意される。

(2) 侯家班の演目について

舟山人形劇で演じられるのは、大半が「歴史物」である。侯雅飛さんがレパトリーとして挙げた演目は以下のとおりである。なお一重下線は、実際に上演を見たもの(ビデオ録画あり)、二重下線は、上演記録を文字化したものである。

①特に祭祀の中で演じられる、儀礼的演目(20分ほどの短編)

A 天官大賜福

B 十子图 (九人の息子は皆出世し、二人の娘は、高貴な結婚をする)

C 賣子救母 (二十四孝に基づく)

D 周文平出考 (科挙受験の場、状元に合格する、笑劇)

②長編(一日二段、約5時間を、7日あるいは数十日にわたり演じる)

1 『樊梨花(薛丁山征西・説唐三傳)』*樊梨花三擒三放

2 『薛剛反唐(薛家将)』*女媧鏡

3 『郭子儀(月唐)』

4 『粉粧楼(羅家将)』*龍虎旗

5 『李三娘(白兔記)』*李三娘推磨

6 『飛龍伝』*『柴栄見姑』趙匡胤

7 『楊家将』『万花楼』(狸猫換太子)

8 金台伝

9 『五虎平西』

10 『五虎平南』

11 『呼家傳』

12 『乾坤印(蕭金玲)』*蕭金玲借避火珠

13 『天寶図』

14 『地宝図』

15 『金龍将』

16 『英烈傳』*張武得宝*大明千里駒

- 17『正徳皇帝遊山東』
 18『飛龍劍』明 *馮世恩出考
 19『乾隆皇帝游南京』蘭絲帶
 ③段物（折子戯、②の中から特に選んで上演する）
 20「百花台」越劇から
 21『双合鏡』文武状元
 22「宝蓮灯」
 22「珠球招親」小戯（侯雅飛が、盲人から聞いた話を基に創作。お金を拾って猫糞しなかったことをほめる話）

これらの演目は、他の人の上演、侯雅飛さんの場合なら、特に師匠である父などの上演、あるいは越劇、京劇などの芝居、書場（寄席）で語られる語り物、民国期に上海などで大量に出版されたいわゆる英雄伝奇小説、ラジオ放送などに由来する。以前は文字テキストもあったというが、現在は残っていない。いずれにしても、基本は即興で演じられるものなので、逐語的な上演原稿では無かったと思われる。

人形劇（舟山では「小戯文」と呼ぶ）には、人が演じる芝居同様、唱、語り、即興の掛け合いと立ち回りがある。人形は、戯曲の登場人物に準じる。人形は一体がほぼ 25 から 30 センチの大きさで、頭は木製で仏師などに作ってもらうが、服は劇団員やその家族で作っている、と言う。人形の服装で最も重要なのは帽子（冠）である。人のほか土地神、虎、龍、馬の人形もある。小道具は武器のほか、随時、工夫する。李三娘の場合、水汲み桶とウサギが特別に準備された。

立ち回りの部分は、もちろん人形遣いのうまさが見て分かる部分であり、特に布袋戯の場合は、指遣いの特色として、糸操りなどより迫力を持って演じられるので、見せ場になっている。また唱、語りの部分が官話風（方言訛りではあるが）になっているのに対し、掛け合い部分は完全に現地語で、即興で演じられる。時事的話題が組み込まれることもある。女の人、おばあさんにも聞いてすぐ理解できる内容であり、見ている人の中から笑いが漏れる。また、途中から見てもすぐに筋が理解できるように、場面が変り、新たな人物が登場するたびに、それまでのいきさつが繰り返し語られる。

(3)「樊梨花三擒三放」について、侯家班

と岱山の一座それぞれの上演を文字テキストに起した。この演目は、岱山の一座が十八番とするもので、岱山一座の演出のほうが悪いの場面にそれぞれ特別の工夫を凝らしている。侯家班の上演では省略された薛丁山の一番目と二番目の妻と樊梨花との戦いの部分も演じられるなど、侯家班より 1 時間ほど長い演出になっている。しかし基本的ストーリー展開においては、むしろ意外なほど一致している。

このことは、「李三娘（白兔記）」の最初の一段「投軍（劉知遠が妻の李三娘を残して、軍に入りに出かける）」について、侯家班と沈家門の普陀木偶戯団の演出を比較した場合でも同様であった。

(3)「郭子儀」戯「月唐」について

玄宗皇帝が月に遊んで、楊貴妃と再会したという故事に因んで名づけられという「月唐演義」は、中国文学史ではほとんど名前も見えない清末の小説である。「説唐」が、主に唐の建国にまつわる歴史物であるのに対し、玄宗から肅宗の時期を、長寿で子だくさん、中国式果報者の代表である郭子儀將軍を軸に、李林甫を第一の悪役に描く。郭子儀の守り立て役が李白に林冲と書けば、小説のレベルは一目瞭然であろう。ところがこの「月唐演義」は、たとえば 84 年に新編伝統評書として花山文藝出版社から 115 万部出版されており、庶民の間で絶大な人気を誇っていたことが分かる。ただし、郝艷霞、王潤生編のこの版は、迷信にかかわる部分は徹底して削除し、話の後半も斬っている。これに対し、侯家班の演出は、民国時代に上海で出た小説本（たとえば瑞成書局印行版、靈巖樵子の提要が付く）にほぼ拠っていることが確認できた。

郭子儀が後ろ盾とする二龍山を根城にする山賊軍団と、李林甫率いる官軍との戦いは、ほとんど「水滸伝」の世界の焼きなおしである。

今回の研究期間には、四十日かかるといわれる郭子儀戯の、およそ 3 分の 1 しか見ることができなかった。内容についても、全般的な検討を行っただけで、個々の部分についての具体的な検討は、処刑される郭子儀たちを、山賊仲間が行商人に身をやつして救い出す、という「水滸伝」でも有名な一場面のみしか、行えなかった。

舟山人形劇の上演内容をさらに検討することによって、いわゆる四大白話小説に数えられる「水滸伝」の成立、伝播にもかかわる口承文藝の歴史を明らかにする糸口が見つかるのではないかと期待している。

(4)「李三娘（白兔記）」の上演テキストについて、方言部分など再度、整理検討し、全

文の日本語への翻訳を作成した。「白兔記」の現存、各種版本とも比較検討した結果、おそらく明代以来の口承文藝の伝統が、現在の舟山の上演にまで及んでいることがうかがえる。なお「李三娘（白兔記）」の上演テキストおよびその全訳は別途公刊予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

馬場英子

舟山、人形芝居の「李三娘」またの名「白兔記」について

『颯風』査読無し 45号

2008年 41-54頁

[学会発表] (計2件)

① 馬場英子

舟山木偶戲李三娘演出的若干考察

中華文史哲藝教學與研究新視野專案

2008年12月22日

東吳大学人文社会学院 (台湾台北市)

② 馬場英子

關於舟山木偶戲侯家班的研究

中日非物質文化遺產保護 鄞州論壇

2008年9月3日

開元名都大酒店 (中國寧波市)

[その他]

馬場英子 瀬田充子 張堅

「中国舟山人形劇（侯家班）のワークショップ」

2007年9月19日 午前10時から午後5時

国立オリンピック記念青少年総合センター

6. 研究組織

(1) 研究代表者

橋谷 英子 (馬場 英子)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：80189513

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

瀬田 充子

中央大学・非常勤講師

張 堅

中国浙江省舟山民間文芸家協会会長

陳 玲

新潟県立歴史博物館主任研究員

毛 久燕

中国浙江省舟山海洋学院中文系卒業